

令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立みつば幼稚園）

教育目標

夢中になって遊び、心豊かにたくましく生きる力の基礎を培う

～身近な自然に心を寄せる子どもの育成～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月23日	学校運営協議会みつばの森
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・子どもが夢中になって遊ぶことができるよう、教師が遊び仲間の一員となり、共に体を動かしたり、遊びを工夫したりする。
- ・登園時、笑顔で挨拶し、気持ちよく子どもを迎える。
- ・子ども一人一人の心の動きに寄り添い、安心感や信頼関係を築く。
- ・教職員で連携し、幼児理解を深め、より良い援助や環境構成を行う。
- ・健康で安全な生活を送ることができるよう、手洗い・うがいなど基本的な生活習慣を身につける。
- ・季節に応じた草花の栽培や小動物の飼育や、園外の自然環境などを取り入れ、子どもが心と体を動かす直接体験を通して、感じる心やいのちを大事に思う気持ちを育てる。
- ・子どものありのままの素直な表現や自己を発揮する姿を受け止め、共感したり認めたりしながら、子どもの自己肯定感を育む。
- ・自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を大切にし、自他の思いの違いを感じたり、葛藤したりする姿を受け止める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案をもとに、日々の保育の振り返りと子どもの姿の変容をとらえ評価する。(週案の振りり)
- ・園全体での保育の振り返りと評価、事例の検討。

保護者アンケート

- ・子どもは幼稚園に登園することを喜んでいる。
- ・幼稚園で夢中になって遊ぶことは、子どもの育ちにつながる。
- ・子どもは幼稚園で夢中になって遊ぶ経験をしている。
- ・子どもは幼稚園で身近な自然(草花・虫・砂・水など)に触れたり、興味をもったりしている。
- ・子どもは幼稚園で、感情経験(笑う・怒る・困る・悲しむなど)を豊かにしている。
- ・子どもは幼稚園で体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。
- ・幼稚園教職員は笑顔で挨拶をしている。・幼稚園は、季節を感じられる栽培活動に取り組んでいる。
- ・幼稚園は、子どもの思いや表現を、受け止めたり共感したりしてかかわっている。
- ・子どもは自分から進んで手洗いやうがいをしようとしている。

中間評価

各種指標結果

- ・臨時休業期間中の家庭との連絡を行い、子どもが園生活を楽しみにしたり、新しい生活習慣を園と家庭とが共通理解したりできるよう文書や動画などで伝えた。
 - ・感染拡大防止の取組を行い、健康・安全・安心な園生活が送れるよう様々な活動の見直しを行いながら教育活動を行った。保護者にも園の方針を伝え、課題を共有しながら家庭と連携を図った。
 - ・日々の保育を保育のねらいに基づき振り返り、子どもの姿をとらえ翌日、翌週の保育につなげるとともに、幼児理解を進めた。また、事例検討などを行い、担任だけでなく園全体で保育について話し合った。教育活動再開を喜ぶ一方、密にならない、換気、マスク着用など新しい生活習慣を常に見直しながらの保育だが、砂や水、絵の具など様々な素材に触れたり、飼育栽培活動を楽しんだりなど直接体験を通して子どもの心が動く工夫をしてきた。
 - ・自粛生活や猛暑により戸外で体を動かす機会が少なかったが、9月以降園庭で走ったり体操したり、竹ぼっくりや一本歯げた、竹馬など自分なりのめあてをもって遊び、のびのび体を動かす楽しさや満足感や充実感を感じることができた。友達とのかかわりも広がりや深まりが見られる。
- アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)
- ・登園を喜ぶ(A79% B20% C1% D0%)
 - ・夢中からの心の育ち(A99% B1% C0% D0%)
 - ・夢中に遊んでいる(A91% B8% C0% D0% 無1%)
 - ・身近な自然への興味(A91% B7% C1% D0% 無1%)
 - ・豊かな感情経験(A75% B24% C1% D0% 無1%)
 - ・体を動かして遊ぶ(A93% B5% C1% D0% 無1%)
 - ・教職員が笑顔で挨拶(A94% B5% C1% D0%)
 - ・季節を感じる栽培活動(A96% B4% C0% D0%)
 - ・思いや表現の受け止め(A92% B7% C0% D0% 無1%)
 - ・自ら手洗い(A69% B29% C2% D0%)
 - ・休業期間中の取組(A74% B24% C0% D0%)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・教育活動再開後、子どもたちが登園を喜ぶ姿が見られた。動画の配布や配信や、家庭での働きかけもあり園児も保護者も園再開を待っていたことが伺え成果が見られた。
- ・感染拡大防止策を行いながら、子どもにとって必要な経験が十分に行えているのか週案を基に振り返り、事例検討により幼児理解や課題をより明確にできた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭や広場を活用し、思い切り走ったり、虫捕りや草花を摘んで自然を感じたり、砂を増やした砂場で、子どもたちが夢中になって遊んだりして、満足感や達成感などを味わう姿が増えてきた。アンケートから「夢中」の重要度は高い。満足度は高評価とはいえる改善の余地はある。さらに園内の環境を活用し子どもたちの「夢中」を支えたい。 ・「密を避ける」ことと、友達とのかかわりの両立が難しい場面がある。今後も場面に応じたより良い方法を考えていきたい。 ・幼稚園は直接体験を重視し「感じる心」を育てることを大切にしているところは変わらないが、ICTの有効な活用を引き続き模索したい。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 分析を踏まえた取組の改善 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止の取組をしながらも、子どもの育ちに必要な豊かな経験ができるよう、身近な自然を意識した取組を行う(栽培活動・園外保育・食育活動など) ・子どもの「夢中」をとらえ、援助していく。保護者にもわかりやすく発信していきたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止の取組を行いながら、子どもに必要な経験ができているか、週案の振り返りや事例検討を行う。
学校 関係 者 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学校関係者による意見・支援策 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・砂を補充したことによる砂遊びの充実は大事だ。小学校でも泥団子を作っている本園卒園児を見る。直接体験を大事にしている保育を今後も継続してほしい。また、保護者に保育で大事にしていることを短い言葉で伝えることで園が大事にしているポイントが伝わると思う。 ・3歳児が落ち着いた姿は、家庭の教育力や動画配信のこともあると思うが、感染症対策としていつもより約束や規制がある生活が影響しているのか。ハンカチの扱いなど生活力がつくことは子どもの活動が広がることになる。今年度の取り組んだことを振り返り、何が課題かも考えていきながら、子どもにとって良かったことは継続すればよい。

最終評価

	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> (中間評価時に設定した) 各種指標結果 </div>
自己 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 分析を踏まえた取組の改善 </div>
学校 関係 者 評 価	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 学校関係者による意見・支援策 </div>

(2) 幼小連携・接続について

	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 具体的な取組 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを意識し、健康面に配慮した小学校との年間交流計画の作成。交流活動の事前・事後の話し合いの充実。 ・接続期カリキュラムの実施と振り返りによる改善。
--	--

- ・近隣の小中学校への交流と保育公開。授業参観・合同研修へ参加し、広い視野から「幼児期に育みたい資質・能力」「学びに向かう力」の理解を深める。
- ・絵本の楽しさを親子で共有できるよう、新着絵本やクラスで読んだ絵本を保護者に伝える。
- ・「親子で絵本！」を活用した家庭との連携。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・小学校との交流での子どもの姿から、交流活動や年間計画を振り返る。
- ・小学校と円滑な接続についての意見交換や、交流活動の互いのねらいについて振り返る。
- ・絵本貸出冊数の月間の推移状況と「親子で絵本！」の活用状況の把握。

保護者アンケート：

- ・幼稚園の絵本貸出や月刊絵本は、親子で絵本に親しむ場やきっかけになっている。
- ・地域の小学校や中学校を知ったり、交流活動をしたりすることは、子どもの心の育ちにつながる。
- ・幼稚園は地域の小中学校のことを子どもに伝えたり交流活動を行ったりして子どもが関心を持つように取り組んでいる。
- ・子どもは地域の小中学校のことを知ったり、児童や生徒に関心や親しみをもったりするようになってきた。

中間評価

各種指標結果

- ・感染拡大防止のため小学校との直接交流はできず年間計画を見直すことになった。小学校のことを知る手段として、学校内を撮影し、園内で校舎探訪として動画を見る試みを行った。
 - ・小学校との円滑な接続について小学校教員と意見交換を行った。
 - ・園再開後7月からえほん室開放 絵本貸し出し冊数(えほん室開放再開後)7月 9月
 - ・「親子で絵本」活用状況:毎月1度幼稚園へほぼ全員が提出 1冊目(100冊)終了12人
- アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)
- ・絵本貸出や月刊絵本(A85% B15% C0% D0%)
 - ・交流活動での心の育ち(A81% B17% C1% D0% 無1%)
 - ・小中学校のことの伝達・交流(A59% B35% C4% D0% 無2%)
- (直接交流を行っていないため「小中学校を知る・親しみをもつ」項目はアンケートから削除)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・感染拡大防止のため小学校の校舎内風景や授業の風景を動画撮影し年長児が視聴し、小学校生活を垣間見ることができた。直接交流ではない新たな幼小接続の形を模索しながら、小学校進学への見通しや期待を持てるように取り組みたい。
- ・幼小互いの教育や円滑な接続について率直に意見交換を行い、小学校へつなぐため、より一人一人の育ちを把握し、育ちが小学校へつながるようにしたい。
- ・幼稚園再開後えほん室開放も7月から行った。夏季休業期間中も人数は少なかつたが親子での来室があり絵本に親しむ環境の必要性を感じる。感染拡大防止をしながら園児が絵本に親しむ機会を今後も大事にしたい。
- ・「親子で絵本」活用の個人差はあるが、2冊目以降に入っている家庭もある。必要を感じないという保護者意見もあるが、絵本にふれる機会を促す取り組みであることを伝えたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・小学校生活に期待を持てるよう写真や動画を用いて紹介し、聞きたいことを小学校に尋ねる取組をする。・鉛筆の持ち方や、箸の持ち方、筆圧など個の実態を丁寧にみとる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連絡回数 ・鉛筆や箸の持ち方などの個々の育ちの振り返り
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えほん室での直接ふれあいを含む読み聞かせは感染対策として今後もしばらく控える。 ・1年生が来園する機会がなく、様子を見に行く機会もない。小学校入学後の様子を知る機会として現状では難しいが、次年度2年生になるが来園する機会をつくりたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめ、安心して心地よく過ごせる環境構成を行う。 ・担任と連携し、教育課程内の活動を連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。 ・早朝担当を含む預かり保育担当者と担任が連絡を密にとり、健康面など家庭との連携を図る。
	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して過ごし、遊べる環境構成であったか、週案の振り返りによる評価。 ・早朝を含む預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 ・学校運営協議会や地域との連携による活動への参加率。

保護者アンケート

- ・なかよしタイム（早朝を含む）は子どもにとって安心して過ごせる場になっている。
- ・なかよしタイム（早朝を含む）では、子どもは好きな遊びや好きな玩具での遊びを楽しんでいる。
- ・なかよしタイム（早朝を含む）は保護者にとって子育ての支援となっている。
- ・なかよしタイム（早朝を含む）は異年齢の子どもと関わる機会になっている。

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・休業中を含め感染拡大防止に努めながら預かり保育を実施。食事場面でパーテーションを設けたり離れて座ったりしたほか、共有の玩具の出し方や使用後の消毒などの工夫を行い、安心・健康・安全な保育に取り組んだ。 ・家庭保育の協力を求めながらの実施であり例年より参加者は少ない時期もあったが、9月以降徐々に

<p>利用が増えている。早朝や長時間利用者が増えるなど預かり保育が必要な家庭が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝を含む預かり保育担当者と担任が連携を取り合い、幼児理解を深めた。早朝では子どもの興味に応じて朝の登園が楽しみになるよう活動を工夫した。担当者と担任、園と家庭の連絡・連携をとり、保護者や園児が安心感をもてるよう努めた。 ・PTA や学校運営協議会の催しができない状況が続いた。絵本読み聞かせが一部再開。 <p>○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は子育て支援になっている(A92% B7% C0% D0% 無1%) ・預かり保育は必要(A87% B12% C0% D0% 無1%) ・預かり保育は安心の場(A80% B17% C0% D0% 無3%) ・異年齢との関わり(A86% B11% C0% D0% 無3%) 	
---	--

自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため、臨時休業中を含め前期前半は家庭での保育に協力をいただいた。前期後半は利用家庭が増えてきている。 ・対策を行いながら異学年が一緒に過ごす場をつくることができた。預かり保育でつながりができる子ども同士が保育時間中にかかわりあい、活動が発展する様子が見られた。 ・早朝預かり保育の体制が整い長時間利用者も含め少しずつ増えている。安心できる場、落ち着ける場づくりを引き続きしていく。 ・今後風邪が流行る冬季、換気、手洗いなどの徹底を含め、感染拡大防止対策を行っていく
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用家庭数が増えてきている。感染拡大防止対策を今後も引き続き行いながら、安心な預かり保育の場をつくっていく ・早朝・長時間利用の家庭との連絡を丁寧に行うよう、園として担任・預かり保育担当者が連携をとって取り組む。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数の多い場合の密にならない遊び場の工夫 ・気温が低くなった季節のこまめな換気 ・担任と預かり保育担当者との連絡連携を振り返る
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かり保育の利用が徐々に増えているので実施できてよかったです。年度当初は休業期間もあり十分に広報できなかったが、今後は早朝預かり保育のことを大いに周知していってほしい。地域でも園の取組を知らせていく。 ・絵本読み聞かせが一部再開している。異学年が集い楽しめる場を提供したいが、健康安全面を考慮し、今年度は昨年度まで行ってきたイベント的な活動は控える。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p>

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・個人懇談会・クラス懇談会・登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う。
- ・ほっこり子育てひろばを開き、保護者同士が、子育てのことを気軽に話せる場をつくる。
- ・教育相談(うさぎ組・ひよこ組)を開設し、健康面に配慮しながら、子どもと保護者が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場を提供する。また、子育ての喜びや不安を話せる場を作る。
- ・HP やチラシなどで、地域や地域の小規模保育事業所への教育相談活動の発信。
- ・うさぎ組では、徐々に園生活を体験できる取り組みを行う。(幼稚園ならではの素材での遊び・栽培活動・靴の脱ぎ履きやトイレ体験・弁当体験など)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の保護者との連絡・連携の振り返りと改善
- ・クラス懇談会への参加率
- ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加率
- ・教育相談活動の振り返りと、子育ての悩みなど相談内容や件数の把握
- ・教育相談活動の発信(チラシ配布・HP掲載)回数

保護者アンケート

- ・幼稚園の教職員に、子どものことや子育ての悩みなどについて話したり相談したりしやすい。
- ・幼稚園は子どもの姿や教育活動を日々の連絡や園だより、HP などで保護者や地域に伝えたり発信したりしている。
- ・幼稚園の教育相談は地域の子育て支援に必要だ。

未就園児保護者アンケート

- ・幼稚園の教育相談を知ったきっかけは(HP・地域回覧・園掲示物その他)
- ・幼稚園の教育相談は、子育てに役立っている。

中間評価

各種指標結果

- ・休業期間中は家庭訪問や電話連絡などで家庭とのつながりを意識した取組を行ってきた。
- ・人が集う懇談会やほっこり子育て広場はコロナ感染の状況を鑑み前期は開催していない。
- ・幼稚園再開後の教育相談は感染拡大防止対策を行いながら徐々に再開している。多数が参加する行事は参加申し込み型とし、参加者を把握した。地域小規模保育所との連絡は繋いでいるが実際の交流は行っていない。
- ・教育相談活動の発信:地域へのチラシ配布、HP 掲載は休業期間中を含め毎月実施。

○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

- ・教職員相談(A75% B22% C1% D0% 無 2%)・教育活動発信(A86% B12% C0% D0% 無 2%)・教育相談の必要性(A84% B13% C0% D0% 無 3%)

臨時休業中の教材・動画配信など家庭保育支援(A74% B126% C0% D0%)

未就園児保護者アンケート

- ・教育相談などみつば幼稚園を知ったきっかけ(複数回答可)以前から知っていた:16 人から:6 他の

自己評価	分析 (成果と課題)
	・再開後保護者との接触機会が減り、連絡連携が取りにくい中、新しい生活様式や行事の見直しなど保護者への丁寧な説明をすることで子育てへの不安感が軽減できるよう努めた。
	・子育ての悩みや喜びを話す場を設けられなかつたが個別の相談には積極的に応じた。今後も家庭との連携を図るためにも保護者が気軽に教職員に相談できるよう努めたい。
学校関係者評価	・臨時休業期間中の幼稚園から家庭への取組(教材配布・動画配信・エールプロジェクトなど)により家庭で過ごす支援について AB 評価で100%と高評価であった。今後も様々な形で子育ての支援を行っていきたい。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) について

具体的な取組
・隣接する特養施設との交流(訪問・手紙を渡すなど)通し、高齢者へ気持ちを寄せる活動を行う。
・地域の交通安全活動にかかる人を知り、安心安全な地域づくりの活動が行われていることを知る。
・小・中学校との連携や交流や、学校運営協議会やPTAと連携した地域との活動(お茶会・もちつきなど)と、地域行事(ふれあい広場など)の案内や参加呼びかけ。
(取組結果を検証する) 各種指標
・特養施設との交流の内容や子どもの姿からの振り返りと評価
・学校運営協議会やPTAと連携した行事や、地域行事などから、子どもの姿や内容改善についての振り

返りと評価。また、地域の幼稚園教育活動への意見

・小中学校への行事参加や子どもの姿の振り返りと評価

保護者アンケート

・隣接する特養との交流は子どもの心の育ちにつながっている。

・幼稚園や学校運営協議会、PTAが、地域と連携した活動（絵本ボランティア・夕涼み会・もちつき・お茶会など）は、子どもの経験を豊かにしている。

・地域の交通安全活動（自転車安全運転啓発）があることを知っている。

中間評価

各種指標結果

・特養施設と直接交流ができない中、花壇の植栽活動により、子どもの気持ちを繋ぐ取組を行った。

・学校運営協議会やPTAと連携した行事（夕涼み会・地域のふれあい広場など）や、地域の交通安全活動など、地域との諸行事が中止となり、様々な人との交流ができない状況であった。

・中学校体育祭参加代替えとして園児の体操動画を中学校に渡し、中学校家庭科との連携を図った。

○アンケート結果（A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない）

直接交流の機会がなくなったため、アンケート項目を大きく変更

・隣接する特養との交流は心の育ちにつながっている（A65% B31% C0% D0% 無 3%）

自己評価

分析（成果と課題）

・感染拡大防止の観点から多くの人との交流ができない中ではあったが、特養とのつながりや中学校家庭科との連携を模索しつつ取り組んだ。しかし、昨年度交流経験のある年長児にとどまっている。他学年にどのように伝えるかが課題。

・地域との諸行事がなく、地域とのつながりが希薄になっている。園の周囲を散歩しながら清掃する活動を年長児が一度行った。今後も子どもたちが地域を意識できる活動を考えたい。

分析を踏まえた取組の改善

・隣接高齢者施設（特養）とのかかわりの工夫

・各学年が地域を意識できる活動の工夫 ・中学校家庭科との今後の連携の工夫

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・特養の花壇の花植え活動の継続など保育の中で特養の方々の存在に気付く工夫

・地域への散歩や清掃活動など園外保育の工夫

・中学校との交流の中で、動画や写真などを用いるなど、子どもたちが身近に感じられる工夫

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

・地域も行事が中止になるなど子どもたちの経験の場が少なく、小中との直接交流ができないなかで、特養花壇の取組など工夫により新たな取組がなされていることを今後も続けてほしい。

・地域と取り組んできた餅つきやお茶会について開催は難しいこともあるが、地域の取組の状況を園に伝え、園の考えを今後も伝え、地域と幼稚園を繋ぐよう役割を担う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

分析を踏まえた取組の改善

学校関係者による意見・支援策

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標

笑顔で元気に教育活動を行うために翌日に疲れを残さない働き方を一人一人が意識する

具体的な取組

- ・効率的な職員会議: 終了時刻を設定して会議を始める。案件は事前に各担当がまとめ回覧しておく。
- ・業務共有ボードを活用し、業務を見る化し、校務支援員や他の教職員と連携した業務遂行を行う。
- ・時間を意識した業務遂行: 退勤時間を周知し、各々が業務にかかる時間の見通しと優先順位をつけ退勤時間を意識する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・会議の効率化が図れたか振り返る。
- ・校務支援員をはじめ、教職員間で連携のとれた業務ができたか、偏りがないか振り返る。
- ・残業時間の前年比

中間評価

各種指標結果

- ・臨時休業中、在宅勤務を行う中で新たな取組などを共有するため取組をボードに書き可視化することで業務がスムーズに進んだ。
- ・保育後の消毒作業など全教職員で取り組んだ。校務支援員の勤務時間が増えたことで事務的作業や消毒作業がはかどった。今後も業務が偏らないよう連絡協力していく。
- ・休業期間中、残業時間、昨年比40～50%減。教育活動再開後は昨年比8～10%減

分析（成果と課題）

- ・休業期間中は大幅に残業時間が減った。教育活動再開後は昨年より若干減っているだけである。消毒など今年度からの取組もあるが、校務支援員配置もある。時間の有効活用に努めたい。
- ・臨時休業中は在宅勤務を活用しながら家庭との連携連絡を図るため、教職員間での情報の共有を工夫して行い、若手教員の情報活用力を生かし動画配信など新たな取組を行えた。初めての在宅勤務では仕事の計画・進捗・報告状況について工夫の余地がある。業務を可視化する意識をもって取り組みたい。
- ・コロナ対応による様々な行事の見直し、資料作成などに時間がかかる。出張などリモートで行われることによる移動時間軽減を生かしながら決まった時間を有効に活用したい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・新しい生活様式を踏まえた後期の行事の在り方の見通しをもって取り組み、新たな取組に必要な業務を可視化しながら進める。
- ・リモートや動画作成など幼稚園におけるITC化を模索しながら各教職員が業務を効率よく進められるようそのスキルを学ぶ。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・業務可視化ボードの活用頻度、工夫
- ・TV会議やZOOMの活用頻度

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	・コロナ感染対策防止のため、様々な取組の見直しが必要になり、今年1年はいろいろなことを縮小して行うことなりと思うが、園児・教職員の健康を第一に考え、無理のないように取り組んでもらいたい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策